

三十歳を迎えた36期生の皆さんへ

今年度、30歳を迎えられた第36期卒業生【平成15(2003)年3月卒業】の皆さんに向けて、当時の担任団の先生方からメッセージをいただきました。

先生方には同窓会より連絡を取らせていただき、40歳になった皆さんに向けて、字数も内容も特に決めず、自由にメッセージを書いていただくよう、お願いをしました。

皆さんそれぞれの高校時代、そして当時の先生方を思い出しながら、どうぞご覧ください。

遅くなりましたが、まずは定森先生にご登場いただきました。他の先生方も、もしかしたら掲載できるかもしれません。

3年5組 定森 秀光 先生

ご生誕30周年おめでとうございます。

米国のバンドであるフランク・ザッパ&マザーズ・オブ・インヴェンションの、1966年に発売されたデビューアルバム「フリーク・アウト！」(Freak Out!)に収録されている「フー・アー・ザ・ブレイン・ポリス？」(Who Are the Brain Police?)という曲がある。日本でシングルカットされた際の邦題は、「ボスは誰だ？」であったが、歌詞の内容からすると少し意味が違うようである。因みにフランク・ザッパは親日家で、輸入盤にも拘わらずアルバムのジャケットに「雑葉」と漢字が使われたりする。

日本のロックの黎明期から活動するバンドに頭脳警察があるが、ザッパのブレイン・ポリスから命名されたことは有名である。バンド結成50周年記念映画「zk/頭脳警察50-未来への鼓動-」が、2023年に全国公開された。そのエンディングテーマ曲がコロナ真っ只中で、閑散とした渋谷のライヴハウス・ラママで収録された書き下ろしの曲「絶景かな」である。誤解なきよう付け加えると、歌舞伎「楼門五三桐(さんもんごさんのきり)」の中で、石川五右衛門が京都・南禅寺三門から満開の桜の景色を愛でて言った名台詞とは直接の関係はない。

米国のジャズトランペット奏者で歌手でもあるルイ・アームストロングは、サッチモの愛称でも有名なミュージシャンである。彼の代表曲の一つに「この素晴らしき世界」(What a Wonderful World)がある。何百人ものこれから戦地のベトナムへ向かう若き兵士の前で、満面の笑みでこの曲を歌うシーンが残されている。その場にいる兵士の半数は生きて帰国することができない悲惨な状況下での、「この素晴らしき世界」である。しかし、3番の歌詞に注目すると「ベビーたちの泣き声が聞こえる、彼らの成長を見守ろう、彼らはより多くを学ぶだろう。私が知るだろうことよりも。そして思う、なんて素晴らしい世界だと。」とある。作者のジョージ・ダグラスはベトナム戦争を嘆き、平和な世界を夢見て、この曲を書いたという。

頭脳警察の「絶景かな」も同様の思いが込められている。人は何度も何度も懲りずに同じ過ちを、現在に於いても繰り返している。そんな世の中だが、いつの日か君と眺める未来は絶景でありたいと願っている。

東西ドイツの統一をこの目で見ることが来るとは思いもしなかったが、ベルリンの壁が崩壊される場面をニュース映像で見たとき、時代の大きな動きに直面しているような胸の高鳴りを感じた。世の中は常に動き続けており、止まることはない。しかし、ベトナム戦争は終結したが、「この素晴らしき世界」は、いまだ訪れない。ハマスとイスラエルが停戦したところで、ガザ地区の問題が解決したわけではない。私が頭脳警察の歌う「絶景」を眺めることは叶うのであろうか。夢・かない高校卒業の皆さんの力に託したいと思う。二十年後なのか、三十年後なのか、もっともっと先なのかは判らないが、一日でも早く皆さんが生きる未来の世の中が「絶景」であることを切に願うものである。